

文化財保護の取り組み

吹田市の文化財保護課では日々の文化財調査と保護に加えて、市民の皆様へ、より文化財に親しんでいただくための各種取り組みを行っています。

－埋蔵文化財の調査－

吹田市内には約 150 か所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）があります。遺跡は、開発等の工事で壊され失われる可能性があるため、遺跡内において影響が大きいと思われる工事では発掘調査・試掘調査を、影響が少ないと思われる工事では確認のため、立会を行っています。令和 4 年度（2022 年度）は発掘調査 21 件、試掘調査 7 件、立会 89 件を実施しました。



▲「吹田操車場遺跡でみつかった古代の建物跡」文化財説明板(新規設置)

－文化財保存事業補助金の交付－

令和 4 年度（2022 年度）は市指定無形民俗文化財 1 件、市地域無形民俗文化財 2 件の保存事業に補助金を交付しました。

－史跡の管理・運用－

国史跡七尾瓦窯跡・吉志部瓦窯跡、府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）、吹田須恵器窯跡No.34および雉子巖碑を管理しており、一般公開しています（常時見学可）。



－文化財の普及・啓発－

文化財の啓発資料の作成・頒布、市内の遺跡・文化財所在地への文化財説明板の設置等を行っています。令和 4 年度（2022 年度）は説明板設置の他、史跡七尾瓦窯跡（岸部北 5 丁目）の説明板を修繕しました。また、平成 29 年度（2017 年度）に実施した都呂須遺跡発掘調査の成果発表として、『都呂須遺跡発掘調査報告書Ⅰ－都呂須遺跡第 10 次・第 11 次発掘調査－』を刊行しました。

（猪股 文京）

◀No. 35 『旧西尾家住宅主屋』

国重要文化財「旧西尾家住宅」の中心的建物である主屋は明治 28 年（1895 年）建築で、居住部・玄関部・計量部屋部の 3 棟で構成されています。「旧西尾家住宅」のペーパークラフトはNo.31・32『茶室 積翠庵Ⅰ・Ⅱ』に続き、3 作目となります。

旧西尾家住宅の保存修理

旧西尾家住宅は、内本町2丁目に所在します。一辺が約60mのほぼ正方形の敷地内に、明治28年（1895年）上棟の大規模な主屋をはじめ、京都茶道藪内家の茶室「燕庵」と「雲脚」の写しである積翠庵や、関西建築界の重鎮であった武田五一の設計とされる離れなど、多彩な建物が残っています。関西地方における都市近郊の大型和風住宅として高く評価され、平成21年（2009年）に国の重要文化財に指定されました。また、令和元年（2019年）9月には、外堀・内堀が追加指定されました。

平成17年（2005年）10月から「旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）」として一般公開を行ってきましたが、老朽化に加え近來の地震や台風の被害もあって、かなり損傷が目立つ状態になっていました。また、耐震基礎診断の結果、大地震時に倒壊の危険が認められたことから、建造されて以来はじめての大規模な保存修理工事を行い、併せて各建物に耐震補強を施していくこととなりました。

国庫補助事業として、令和2～3年度にかけては外堀（鉄筋コンクリート堀）の工事を実施し、令和4年（2022年）7月からはⅠ期工事として、主屋・米蔵の半解体修理等を実施しており、文化庁の承認を受けた主任技術者等が建物の修理履歴等の詳細調査を行いながら、工事を進めています。

今後は主屋のジャッキアップ等を予定して

います。工事の様子はホームページ等でも随時発信してまいります。（立岡 宏美）



▲主屋屋根解体後



▲米蔵ジャッキアップ中

修理工事現場見学会を開催しました

令和5年（2023年）10月14日・15日に、修理工事現場見学会を開催し、瓦を降ろし下地を取り外した屋根等、普段はなかなか見ることのできない姿を、工事関係者の解説とともに間近でご覧いただきました。大工さん手作りの模型を使った仕口や継手の説明では、参加者の皆様にも模型の取り外しや組み立てを体験していただき、「職人の技」を体感していただきました。また、小中学生を対象にした回では、カンナ削り体験やカンナ屑を使ったポンポン作りなども実施しました。



旧中西家住宅の公開状況

旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）では毎年4月上旬には「春の特別公開」を、11月下旬には「秋の特別公開」を実施し、それ以外の月は通年で建物と庭園の公開（週3回・解説付き）、庭園のみの公開（週3回）を行っています。

令和5年度（2023年度）の「春の特別公開」は4月1日（土）から9日（日）にかけて開催しました（3日（月）は除く）。この時期はまだ新型コロナウイルス感染拡大予防のため1回当たりの入場者定員を通常時の半数である15名に限定し、マスク着用やアルコール消毒、換気の徹底などの対策もとの実施となりました。期間中の入場者数は8日間で184名でした。会期初め頃に満開を迎えていた庭園の桜も終盤には葉桜が目立ち始めましたがつつじ類や青もみじが目を楽しませてくれました。主屋では江戸時代の儒学者で、大坂で活躍した篠崎三島や中井竹山の書や泉州出身の絵師である日根対山や曾我二直菴の絵画の掛け軸などの展示を行いました。



▲春 桜の旧中西家住宅

5月8日以降はコロナ対策の緩和に伴い定員を通常時の30名に戻しました。多くの見

学者の来館を期しましたが、今夏は猛暑の影響もあり夏場の見学者数はあまり伸びず、令和5年（2023年）9月末までの上半期の総入場者数は407名でした。

今年度の「秋の特別公開」は11月22日（水）から30日（木）にかけて開催しました（27日（月）は除く）。期間中の入場者数は251名でした。庭園は紅葉で彩られ、特に主屋玄関棟の窓から掘り下げた庭を眺めると赤、橙、黄などの様々な色のもみじが楽しめ、見学者にはとても好評でした。また、普段は非公開である離れ座敷の襖絵の公開のほか、大塩平八郎など大坂ゆかりの文人たちの書や絵、煎茶道具のほか、旧中西家住宅では初めてとなる所蔵の刀剣類の展示などを行いました。



▲秋 紅葉の旧中西家住宅

これから寒い季節に向かい、旧中西家住宅の庭園は物静かな冬枯れの装いへと変わっていきます。四季折々に楽しめる庭園に加え、所蔵する美術工芸品の展示にも力を入れてまいりますので、地域の歴史と伝統を堪能できる旧中西家住宅を是非一度ご訪問ください。ご予約をお待ちしています。

（旧中西家住宅館長・松本 仲雄）

都呂須遺跡B地点(旧西尾家住宅内)の発掘調査



▲調査区位置図



▲第1次調査 石組み



▲第2次調査 石積み

旧西尾家住宅では現在、大規模修繕工事を行っており、これに伴い、令和4年度から埋蔵文化財の調査を行っています。令和4年(2022年)8月から本年9月まで5次にわたり行った調査について紹介いたします。

第1次調査は令和4年(2022年)8月に旧西尾家住宅表門東側前庭にて表門関係の遺構の有無の確認のため実施したものです。調査区のうち、北側に設定したT1では地表下約0.5mでこぶし大の石材が6個東西に並び、T2では地表下約0.4mで石材2個が東西に並び、コンクリートで固定された状況を確認しました。さらにT1の地表下約1.3mで層厚約0.5mの中世の遺物包含層(瓦質土器、白磁、土師器、瓦器等)が確認できました。T1・2で確認した石材は現在の前庭関連かそれ以前のもの(近・現代)と判断され、表門関連の遺構は確認できませんでした。また、T1で新たに確認した中世の遺物包含層により、旧西尾家住宅敷地全体が新規の遺跡、都呂須遺跡B地点として周知されることとなりました。

第2次調査は令和4年(2022年)10月に同住宅北東納屋を対象に、旧西尾家住宅に残された絵図中に「下雪隠」と記された便所の位置を確認するために実施しました。調査区2か所のうち、南側のT3は現代の攪乱を受けており、T4では地表下約0.4mで0.4×0.3m大の平面三角形の石(花崗岩か)が3石並列した状態の石積みを検出しました。石積みの北面は方位N-60°-Eを測り、旧西尾家住宅敷地北面部の方位に一致します。石積みは石垣か側溝の一部の可能性もあります。盛土直下での検出状況から近代の所産と考えられます。便所は確認できませんでした。

第3次調査は、同住宅の主屋北西部、戌亥土蔵との間に、古図面に記載のある便所の有無を確認するために実施したものです。調査区のうち、東側に設定したT5では、地表下

約0.2mで北端と南端の2か所で陶器甕^{かめ}上半部分を検出し、便槽^{べんそう}の甕と考えられます。また、甕と甕の中間部分に平面円形の径約0.3m、深さ約0.05mのピット（小さな穴）を検出しました。西側のT6では地表下約0.1mで平面円形の径約0.3m、深さ約0.1mのピットを、T6の北側のT7では地表下約0.1mで2基のピットを検出しました。以上のように検出した陶器甕の便槽とピットは古図面の記載に一致し、便所が設けられていたと考えられます。

第4次調査は基礎掘削工事が予定されている同住宅の米蔵^{こめぐら}を対象に、令和5（2023年）年4月に米蔵の南北中軸部分に調査区を3か所（T1～3）設定し、実施しました。調査ではT1・2で近世の瓦溜^{かわらため}（濃密に瓦が集積した遺構）を検出し、近世の瓦類（平瓦・丸瓦・棧瓦・道具瓦・軒平瓦・軒丸瓦）を主体とし、陶器・磁器・土師器・銭貨^{せんか}（寛永通寶^{かんえいつうほう}）・鉄釘・石材等（以上近世）を含んだ、遺物収納箱約15箱分の多量の遺物が出土しました。今回の調査区では北から南側に向かって傾斜する土層が観察されますが、瓦溜を形成するなど多量の瓦片を含んでいることから、近世に廃材処理などを含んだ人為的な盛土を行って地盤をかさ上げし、米蔵のベース面とした可能性が考えられます。

第5次調査は令和5年（2023年）9月に米蔵の基礎の状況確認を目的に調査区を3か所（T4～6）設定し、実施しました。米蔵西側に設定したT4・5の地覆石^{じふく}下部では地表下約0.4mの位置に厚さ約0.1mの粘土層を敷いて石垣を1段設置しているのを確認しました。米蔵南側に設定したT6の地覆石下部では地表下約0.6mで2段の石垣を検出しましたが、石垣の下に粘土層は認められませんでした。米蔵の西側と南側で基礎の設置状況に相違があることがわかりました。出土遺物は近世の瓦類、陶器、磁器等が認められました。

（西本 安秀）



▲第3次調査 便槽の甕



▲第4次調査 瓦溜と石材



▲第5次調査 基礎石垣

吹田須恵器窯跡 No.2 の発掘調査 (岸部北4丁目)

吹田須恵器窯跡No.2は、岸部北4丁目の紫金山公園内に位置する遺跡です。

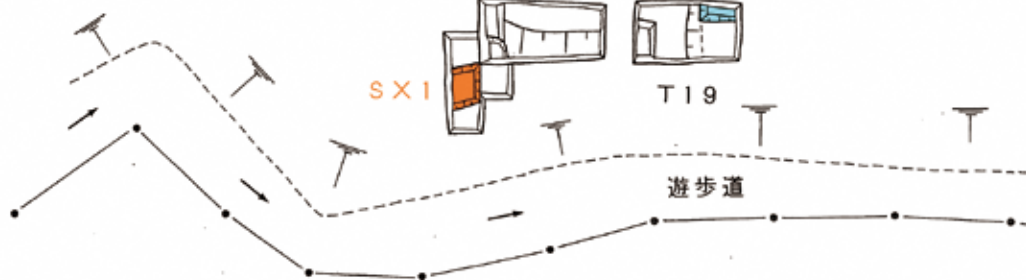
昭和47年(1972年)に関西大学考古学研究室によって発掘調査が行われ、遺構は現地保存されていますが、時間の経過によりその位置は不明確となっています。そのため、平成26年度(2014年度)から位置と保存状態確認のための発掘調査を実施しており、今回で通算5回目となります。調査は令和5年(2023年)3月中に行い、調査区としてT19、T20、T21(調査区番号は平成26年度からの通番号)の3か所を設定し、人力で掘削しました。

T19では、南半分では谷状の落ち込み地形と令和元年度に実施した調査区T18の一部が検出されました。遺物は検出されませんでした。



▲落ち込みS X 1(画面中央)

T20では、北端部で垂直、またはオーバーハング気味に掘られた落ち込みS X 1を検出しました。落ち込み底部の一部は硬質で、



▲調査平面図

黄橙色から明青灰色を呈していました。また、内部は人為的に埋め戻されたような堆積状態で、窯壁片、須恵器杯蓋・杯身・甕の他、少量のビニール片が出土しました。この落ち込みS X 1は関西大学の発掘調査トレンチの跡であると思われます。

T21では、表土層のすぐ下が地山層であり、遺構・遺物は検出されませんでした。

以上のとおり、今回の調査では窯跡は発見



▲T21における人力掘削の様子

できませんでした。これまでの発掘調査の痕跡を発見しました。この結果に遺物の出土状況なども考慮しますと、窯跡は釈迦ヶ池(西方向、平面図下側)から遊歩道を挟んだ付近に存在する可能性があります。(猪股 文京)



T21

榎坂遺跡の発掘調査（江坂町3丁目）

榎坂遺跡は吹田市江坂町3丁目一帯に広がる弥生時代から中世の集落遺跡です。これまでに行った発掘調査から、柱穴、井戸、土坑等の遺構とともに、土師器や須恵器等の土器の他、貴族が身につけていた帯飾り、緑釉陶器や青磁や白磁等の高級品、銅銭等が出土しています。

今回実施した調査では、T1では遺構面を4面、T2では遺構面を3面検出しました。

第1次面は、地表面下約0.5mから、T1ではピット（小さい穴）1基、T2では東西方向の溝1条を検出し、第2次面は、地表面下約0.7mから、南北方向の溝をT1・2で各1条検出しました。第3次面は、T1では地表面下約1.5mからピットと考えられる落込み1基を確認し、T2では地表面下約1.4mから、ピット6基・溝状の落込み1基を検出しました。さらにT1では第3次面よりさらに深い地表面下約1.7～1.8mから遺構面がみつきりピット5基を検出しました。

今回の調査では、土師器杯・皿・甕・壺等、須恵器壺・甕・杯等、製塩土器、黒色土器A類、瓦器などが多数出土した他、緑釉陶器、灰釉陶器、染付、骨などが少量ながら出土しました。時代としては、奈良時代後半～平安時代前期の土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、製塩土器などが最も多く、古墳時代後期の土師器、平安時代中期から鎌倉時代の土師器や瓦器などがありました。

第1・2次面については、土鍋と思われる中世の土器が出土していることから、第2次面は中世、第1次面は中世～近世の遺構の可能性が考えられます。第3・4次面については、遺構内及び土層内から奈良時代後半～平安時代前期の遺物が多数出土しており、両面とも平安時代前期までの時期の遺構と考えられます。

江坂・垂水地域は、平安時代初頭に神崎川上流で淀川とつながり運河が開削され、その後古代・中世を通じて京・西国間の交通の要所として重要な役割を担うとともに、摂関家・領垂水牧榎坂郷や東寺領垂水荘等の京都の

有力者と関わりの深い荘園が営まれた地域であることから、今回検出した遺構は、そういった荘園に関連する集落の一部と考えられます。（田中 充徳）



▲ T2第2次遺構面（溝）検出状況



▲ T2第3次遺構面検出状況



▲ T1第4次遺構面検出状況

特別企画「むかしのくらしと学校」展

●● イベントの案内 ●●

◆子供体験講座◆

「手づくりおひな様」

日時／令和6年2月4日（日）
午後1時30分～3時30分
講師／エコおもちゃ作り市民塾の皆さん
内容／和紙・木材等を使って作ります。
場所／講座室
定員／15名
対象／小学生以上
申込／1月23日（火） 必着

◆子供体験講座◆

「ミニチュア銅鏡づくり」

日時／令和6年2月17日（土）
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／博物館学芸員・博物館ボランティア
内容／五反島遺跡出土の銅鏡の3分の1ミニチュアをつくります。
場所／講座室
定員／午前・午後の部とも各10名
対象／小学3年生～中学生
（小学生の場合は保護者同伴）
申込／2月6日（火） 必着

◆子供体験講座◆

「手作りおもちゃ教室」

日時／令和6年2月25日（日）
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／心ふれあいSA吹田おもちゃ部会の皆さん
内容／昔の遊び道具と牛乳パックや身の回りにある材料を使っておもちゃ作りをします。
場所／講座室
定員／午前・午後の部とも各20名
対象／5歳～中学生
申込／2月13日（火） 必着

◆ワークショップ◆

「マリオネット操り講座」

日時／令和6年3月9日（土）
午後2時～3時30分
講師／山下恵子氏、柿本香苗氏、藤本真由美氏
内容／実演を見たあと、マリオネットを操ってみます。
場所／講座室
定員／18名
対象／小学生以上（小学生は保護者同伴）
申込／2月20日（火） 必着

◆親子体験講座◆

「大昔のアクセサリー～まが玉づくり～」

日時／令和6年2月10日（土）
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／博物館学芸員・博物館ボランティア
内容／ろう石を削ったり、磨いたりして、大昔のアクセサリーまが玉を作ります。
場所／講座室
定員／午前・午後の部とも各30名
対象／小学生・中学生・保護者
申込／1月30日（火） 必着

◆ワークショップ◆

「簡単マリオネットワークショップ ～作って遊ぼう」

日時／令和6年2月24日（土）
午後1時30分～4時
講師／山下恵子氏、柿本香苗氏、藤本真由美氏
内容／紙コップとたこ糸で簡単なマリオネットを作って遊びます。
場所／講座室
定員／18名
対象／小学生以上（小学生は保護者同伴）
申込／2月6日（火） 必着

◆親子体験講座◆

「昔のあかりと火おこし体験」

日時／令和6年3月3日（日）
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／博物館学芸員・博物館ボランティア
内容／ろうそく、行灯、石油ランプなど、昔のあかりを学習し、火打ち石やまいざり等の火おこしを体験します。
場所／講座室（火おこしは屋外）
定員／午前・午後の部とも各20名
対象／小学生・中学生・保護者
申込／2月20日（火） 必着

◆親子体験講座◆

「昔は草木で染めたんだあー草木染め体験」

日時／令和6年3月16日（土）
午後2時～4時
講師／博物館ボランティア
内容／紫金山公園の自然の草木を使って色を取り出し、どのように染まるかを体験します。
場所／講座室
定員／20名
対象／小学生・中学生・保護者
申込／3月5日（火） 必着

■■ 申込方法 ■■

はがきかFAXに、講座名、希望の時間帯、参加者全員（付き添い含む）の名前（ふりがな）、郵便番号、住所、学年、電話番号を書いて博物館まで。吹田市役所ホームページの電子申込システムからも応募できます。※申込多数の場合は抽選になります。

吹田市立博物館だより第96号 令和5年（2023年）12月28日発行 発行：吹田市立博物館
〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号 TEL 06（6338）5500 FAX 06（6338）9886
ホームページ<https://www.suita.ed.jp/hak/>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



この冊子は2,000部作成し、1部あたりの単価は45.1円です。森林認証紙と植物油インキを使用しています。